

平成26年度 荒浜小学校の取組

1 重点取組事項

- 1 校内研究における防災教育の取組
- 2 防災副読本の活用
- 3 「我が家の防災カード」の活用
- 4 復興プロジェクトの実施

2 重点取組事項の具体的な内容

- 1 校内研究において、全学年で授業を行い、防災教育の授業の充実を図る。「ふるさと荒浜」のこれまでの歴史や現在の復興の様子から、防災について学ぶ。
- 2 各教科・道徳・特別活動で防災副読本を計画的に活用する。また、校内研究と関連付けて、副読本を使った授業を各担任が展開する。
- 3 ①児童が、災害発生時の約束を家族と話し合い、自分で行動して命を守れるようにするために、家族と約束したことを「我が家の防災カード」に記入し、各家庭の玄関に貼るようにする。
②スクールバス（本校児童の9割以上はスクールバスによる通学）乗車時、またはバス待合時における災害発生の際の児童の動きについて保護者に周知し、児童が自ら適切な判断ができるようにする。
- 4 地域に貢献できる児童の育成を図るため、毎月1回程、地域のゴミ拾いや草取り等を行う。この取組を本校の復興プロジェクトとし、荒浜小の児童の元気な姿を発信する機会と捉える。

3 成果と課題

- 1 「ふるさと荒浜に学ぶこれからの防災」を研究テーマとし、防災と復興を意識したカリキュラムを編成した。震災後は心のケアの観点から、学校としては、児童のふるさとである荒浜での教育活動を意図的に計画しないようにしてきた。しかし、震災から3年が過ぎ、児童の様子に変化が表れはじめたことから、平成26年度の年間指導計画は、ふるさと荒浜に深く関わるものに大きな変換を図った。児童は、荒浜の地域の人や荒浜の復興に関わる人とのふれ合いを通して、“自分たちのふるさとである荒浜を安全な町にしたい”、“荒浜地区に暮らしていた人と力を合わせて復興に携わっていききたい”等の強い思いを持つことができた。
- 2 学年によって、副読本の活用の仕方については差があったが、教科学習や行事の中で扱える内容を中心に活用した。特に教科では理科や総合的な学習の時間、行事では防災訓練や復興プロジェクトなどの資料として活用した。今後は、授業実践をお互いに見合う時間などを設けて、防災教育の研究を更に進めていく必要がある。

〈指導事例〉

- | | |
|---------|---|
| ○単元名 | 未来へつなぐ（副読本P14～15） |
| ○学年・教科 | 5年・総合的な学習の時間 |
| ○主な学習内容 | 阪神・淡路大震災から復興した神戸の様子を知り、復興に向けて、多くの人が力を貸してくれていることを知る。 |
- 3 ①我が家の防災カードに記入することは、家庭の中で災害時における約束を確認し合う機会となり、家庭の防災意識を高めるために役に立った。
②スクールバス非常時対応訓練を実施したことで、児童自身が、「自分の命は自分で守る」ことや、学校外で災害が起こったときの対応の仕方などを考えることができた。
 - 4 復興プロジェクトの意義を考えさせたことにより、児童が自主的に挨拶をしたり、校舎内に落ちているごみを拾ったりする姿が見られるようになった。今後も、更に児童が主体的に活動することができるように指導、支援をしていきたい。